

## 令和 5 年度第 1 回小笠原諸島世界自然遺産地域連絡会議 議事録

■日時令和 5 年 6 月 10 日（土）15：00～17：00

■場所小笠原世界遺産センター会議室／母島支所会議室／内地（Web 出席）

■議事次第

（1）管理計画の点検・見直しについて

①昨年度の検討経緯と今年度のスケジュール

②管理計画案の確認

（2）その他

・「小笠原諸島世界自然遺産の保全体制等に関する勉強会」の開催について

■資料

資料 1 管理計画及びアクションプランの見直しについて

資料 2 令和 4 年度小笠原諸島世界自然遺産 地域連絡会議意見対応

資料 3－1 基本方針修正案

資料 3－2 自然と人の共生に関する管理の方策案

参考資料 1 小笠原諸島世界自然遺産地域連絡会議 設置要綱

参考資料 2 令和 4 年度小笠原諸島世界自然遺産 地域連絡会議議事録

参考資料 3 小笠原諸島世界自然遺産に関する検討概念図

参考資料 4 令和 5 年度世界遺産管理に係る主な会議・説明会等

参考資料 5 世界自然遺産小笠原諸島管理計画アクションプラン（案）

参考資料 6 世界遺産管理に係る主な取組状況

■協議結果概要

○会議は公開（オンライン）で行われた。

○主な意見は以下のとおりであった。

（1）管理計画の点検・見直しについて

①昨年度の検討経緯と今年度のスケジュール

- ・ 令和 5 年第 1 回科学委員会の委員意見のうち、基本方針に対するご意見、各島の長期目標に対するご意見については、特に強く賛同する。

②管理計画案の確認

<管理の基本方針>

- ・ 種間相互作用と広域移動種の説明については、用語集に記載するだけでなく、小笠原の生態系の特性として本文中にも残してほしい。
- ・ 管理の方策の「②未侵入・未定着の侵略的外来種の侵入・拡散防止」については、長期目とタイトルの重複感があるため、タイトルを工夫してもらいたい。

<管理の方策>

○全般

- ・ 現況と課題を確認するにあたって、現行の管理計画やアクションプランに対する事務局評価を共有してもらいたい。
- ・ 地域連絡会議のような大きな会議では、遺産管理に係る日頃の努力や苦しみのようなものが取り上げ切れていないと感じる。

- ・ 自然と人の共生については、生態系の管理や持続的な遺産の管理とあわせて進めていく必要があると考える。
- ・ 各所に民間活用に関する記載があるが、具体的な内容が見えてこない。まずは既存の制度を整理してはどうか。
- 生態系の修復と固有種等の絶滅回避
  - ・ 父島の長期目標①に関連する脅威として、ポリネーターの激減を追記してはどうか。
- 自然と共生した島の暮らしの実現
  - ・ 「適切な外来種対策や固有野生動植物種への影響の回避・低減対策に取り組む農業者を支援し」とあるが、農業者の支援よりもむしろ、コウモリそのものへの対応を検討してほしい。
  - ・ 「自然と共生した産業の振興」に関連し、島の資源を利用した産業や商品開発は、事業者としてこれからさらに拡大させていけると思う。
- エコツーリズムの推進
  - ・ 現状と課題は、作業部会等の結果を反映した内容となっていて、とても良いと感じた。
  - ・ 管理の方策では、小笠原村観光振興ビジョンについて、より具体的に記載してもらいたい。
  - ・ 「来島者が小笠原諸島の自然を楽しみながら」とあるが、基本方針と同じく「村民」も追加してはどうか。
  - ・ 各所に「適正利用」という表現があるが、逆に言えば適正に利用されない可能性や心配があるというようにも読める。
  - ・ 「侵略的外来種の配慮を含むツアー等」とあるが、自然を利用してエコツーリズムを推進するだけでなく、村民や来島者が自然から恩恵を受けるとともに自然に貢献するというようなニュアンスが盛り込まれると良いのではないか。
  - ・ 遺産を守るだけでなく、動物にとっても人にとっても安全に快適に観察できるような、観光のためのハード整備も必要だと思う。
- (2) その他(「小笠原諸島世界自然遺産の保全体制等に関する勉強会」の開催について)
  - ・ 昨年12月、地域連絡会議向けに小笠原の世界遺産管理に関する条約や法律、条例などを整理した勉強会を開催した。今年度は第2回として、他の世界自然遺産地域の取り組みや等を紹介したい。

## ■議事録

### ○関東地方環境事務所・立田次長から挨拶

- ・ 本日は世界遺産の地域連絡会議開催にお集まりいただき感謝申し上げます。また、日頃のご協力にも感謝している。本日は土曜日の開催だが、かつて私が小笠原にいたときも地域連

絡会議などは出港中に開催していて、それが土日になることも普通だったと思う。管理機関にとっては休日となるが、本日は2時間よろしく願いしたい。

- ・昨年度から管理計画及びアクションプランの改定に着手しているところだが、今年度改定完了を目指しており、本日はその中でも計画書の根幹となる、今後10年間の具体的な方策について、地域としてのご意見を伺いたいと考えている。
- ・先週金曜日6月2日には科学委員会を開催し、本日もお示ししている改定案について専門的な知見からも意見をいただいたところである。内容については今後修正が必要な点もあると思うが、現時点での皆様のご意見をいただきたいと考えている。本日は2時間と少し長時間となるがよろしく願いしたい。

#### ○東京都小笠原支庁・大場支庁長から挨拶

- ・2年前まで支庁の漁業・農業協同組合指導担当部長として小笠原で勤務をしていた。今年4月に支庁長を拝命し小笠原に帰ってきた。よろしく願い申し上げる。
- ・各団体の皆様にはお忙しい中、本日の会議にご出席いただき感謝申し上げます。議題にある通り、今年度は管理計画の改定等を予定している。世界自然遺産の管理はこれまでに外来種の駆除や利用ルールの遵守などにより植生が回復するなど、取り組みの成果も確認されてきている。一方で、新たな外来種の侵入など課題も多い状況である。
- ・その中でも事業効果が上がるよう創意工夫を図るとともに、地域団体や村民の皆様とも連携しながら、外来種対策や植生回復の取り組み、あるいは産業観光の振興など各種事業を推進していきたいと思っている。本日は限られた時間ではあるが、忌憚のないご意見をいただければと思う。

### (1) 管理計画の点検・見直しについて

#### ①昨年度の検討経緯と今年度のスケジュール

○資料1、資料2に基づき、小笠原自然保護官事務所・若松から説明を行った。

- ・鈴木（小笠原自然文化研究所）：ここでは管理計画案のうち、基本理念と基本方針について議論をするという理解で良いか。基本理念や基本方針は、管理計画の中でも非常にざっくりとした考え方を整理したもので、本日このあとに議論する資料3-2 管理の方策は、今後10年の具体的な方策を整理したもので、本日の議論の中核になると思う。そして管理の方策は、アクションプランと対応しているということで良いか。

→若松（小笠原自然保護官事務所）：ご認識の通りである。基本方針は分野ごとの大きな方針を短くまとめたパートである。そして、基本方針と同じ項目立てで管理の方策を整理している。管理の方策は、今後10年間の大まか取組方針を示している。基本方針は昨年度12月の会議でもご覧いただいているため、今回は12月のご意見を踏まえて若干ブラッシュアップしたものとなっている。管理の方策は今回初めてご覧いただく資料となる。

- ・鈴木（小笠原自然文化研究所）：先日の科学委員会結果の冒頭3つの意見は、当研究所と

して強く賛同する。特に自然と人の共生については、各論に入り込みがちだと思うので、社会・経済・環境の各観点から対応していくことが非常に重要と考える。持続的な遺産の管理についても、科学委員会のご指摘のとおりで、地域連絡会議としてはまさに島内連携をきちんと考えていきたいと思うので、ぜひ計画書に反映いただきたい。また、管理の方策の「生態系の修復と固有種等の絶滅回避」の長期目標について、「外来種に依存している保全対象種もいるため、種間相互作用の観点も考慮の上、長期目標を再考すべき」とあり、再考とは強い表現だと思うが、これにも非常に強く賛同する。こうしたひずみは地域や村民にも影響を与えるため、ぜひ計画書に反映いただきたい。

→織委員：自然と人の共生に関するコメントは自身が発言したものであり、計画書案を検討する際には、発言者として手助けをしていきたいと考えている。

→若松（小笠原自然保護官事務所）：科学委員会当日は大小様々な意見をいただき、資料の作り方や用語の使い方に対する指摘も多かった。本日の報告では、その中でも特に地域連絡会議に関係しそうなものを抽出して説明した。小笠原自然文化研究所のご意見は承知したので、科学委員会のご指摘をできる限り反映できるよう、修文作業を進めていきたい。

## ②管理計画案の確認

○資料2、資料3-1に基づき、小笠原自然保護官事務所・若松から説明を行った。

・ 藪内（小笠原野生生物研究会）：p.1 下段の四角囲み箇所は用語集等に掲載予定と書いてあるが、最終的に参考資料等へ移動して、この位置からは削除されるということか。

→若松（小笠原自然保護官事務所）：その想定である。参考資料としてまとめて書くのが良いかと考えている。

→藪内（小笠原野生生物研究会）：四角囲み箇所は、種間相互作用と広域移動種の説明として書かれているが、小笠原の生態系の特性を良く表現しており大事な情報と思うので、ぜひこの位置に残してほしいと思った。もう一点、p.2の「②未侵入・未定着の侵略的外来種の侵入・拡散防止」については、長期目標はこのまま、タイトルは「侵略的外来種対策」とするのが良いのではないか。基本方針のタイトルと長期目標が全く同じ文章になっているし、未侵入・未定着のものに限定せず、広く侵略的外来種対策と捉えた方が良いのではないか。

→織委員：種間相互作用や広域移動種に関する説明の取扱いについては、遺産管理を進める上で重要な観点として、本文にもある程度盛り込んだ上で、詳しい説明は用語集にまとめる、という整理も考えられるように思う。ご意見を参考に管理機関で改めて検討いただきたい。「②未侵入・未定着の侵略的外来種の侵入・拡散防止」のタイトルについては、以前もいただいていたご意見かと思う。事務局から回答をお願いしたい。

→若松（小笠原自然保護官事務所）：種間相互作用と広域移動種に関する説明については、基本方針を理解する上で本文に掲載しておいた方が良い内容もあるかもしれない。改めて検討したい。②のタイトルについては事情がある。「①生態系の修復と固有種等の絶滅

回避」には、管理機関が取り組んでいる遺産関連事業のほとんどがこの項目に整理され、これに対応する管理の方策は島ごとに整理している。既に侵入した侵略的外来種の対策は、保全事業とあわせてここに整理した上で、「②未侵入・未定着の侵略的外来種の侵入・拡散防止」には、未侵入・未定着の外來種をこれ以上入れないための対策、全島的に一律に取り組むべきものを整理している。

→蕨内（小笠原野生生物研究会）：その点については承知しているため、一度は考え直したが、他の項目はタイトルをより具体的にした長期目標が設定されているが、②はタイトルと長期目標が全く同じ内容になっている。また、侵略的外来種対策は要請事項にも挙げられている事項であり、大きな柱として打ち出した方が良いのではないかと考えた。

→織教授：ご意見踏まえて再検討いただくということではいかか。②を「侵略的外来種対策」とし、既侵入に関する内容も一部含む方針でうまく整理できるかどうか、管理機関で再検討いただけるか。

→若松（小笠原自然保護官事務所）：構成を大きく変更することは難しいかもしれないが、表現上の工夫は検討したい。

○資料2、資料3-2に基づき、小笠原自然保護官事務所・若松から説明を行った。

○小笠原村観光振興ビジョンについて、小笠原村産業観光課・大津から説明を行った。

・鈴木（小笠原自然文化研究所）：管理の方策について、今日資料を示してもらって、議論の時間を取ってもらっていることはありがたいが、アクションプランと照らし合わせてみないと何とも言えない部分があると思う。今、資料を見る時間を取ってもらえたらと思う。また、現況と課題については、現行の管理計画やアクションプランに対する評価がわからないと、良し悪しを判断できない。昨年度の時点で、評価結果をまとめて示すことは難しいという話もあったかと思うが、参考として新たに資料を作るのではなく、作業データでも良いので共有いただくとありがたい。現行計画において、何がやり残しになっていて、何が今後重要になるのかがわかると、会議後にじっくり資料を見るにあたって大変ありがたい。

→若松（小笠原自然保護官事務所）：参考になるものをお示しできるかどうかは、管理機関で検討したいと思う。アクションプラン案については、参考資料5に示しているとおりのため、管理の方策を確認いただく上でも参考に見ていただければと思う。

・鈴木（小笠原自然文化研究所）：新たに「レスポンシブル・ツーリズム」という言葉を追加していただいたようだが、今年3月に策定された小笠原村観光振興ビジョンについても、具体的に記載してもらいたい。

→織委員：同感である。話題にも出たところなので、村の観光振興ビジョンについて、小笠原村よりご説明いただきたい。

→大津（小笠原村）：小笠原村では今年3月観光振興ビジョンを策定した。策定においては多くの方に関与いただいて議論を積み重ねるなど、取りまとめの過程を重視したことか

ら、結果的には具体的な施策の事業化には至っていない。今年度は観光振興ビジョンでまとめた重点事項や主な施策についてや、具体的な取り組み内容、実施推進体制、スケジュール等をアクションプランとして整理したいと考えている、アクションプランは、ビジョン策定に関わった検討会のメンバーを中心に、今年一年かけて議論を重ねて取りまとめていきたいと考えている。取りまとめに当たって、地域連絡会議参画団体の皆様や管理機関にもご意見をいただくような場面があれば、また改めてお話をさせていただき、ご協力をお願いしたい。

→織委員：観光振興ビジョンは非常によくまとめられていると思う。レスポンシブル・ツーリズムという言葉以上に、観光振興ビジョンの要素について、管理計画に盛り込むことを検討いただけると良いだろう。

・筒井（小笠原村観光協会）：「エコツーリズムの推進」の現状と課題に追記いただいた2点は、作業部会等の結果を反映したものであり、とても良いと感じた。観光関連で最も目玉になるのは南島の利用かと思うが、南島については東京都と村で協定を結び、利用ルールを推進してきた甲斐もあって植生の回復が見られることから、近々ルールの改定が予定されている。こうしたルールの見直しについて、管理計画に明記されたことは非常に良いことと思う。

・川畑（母島観光協会）：p.4に「来島者が小笠原諸島の自然を楽しみながら」とあるが、基本方針には「村民と来島者が小笠原の自然を楽しみながら」とあるので、管理の方策も村民を追加いただけたらと思う。

・新島（小笠原島漁業協同組合）：特段意見はない。

・門脇（小笠原アイランズ農業協同組合）：p.2に「適切な外来種対策や固有野生動植物種への影響の回避・低減対策に取り組む農業者を支援し」とあるが、農業者の支援よりもむしろ、コウモリそのものへの対応を検討いただきたい。我々の立場からすると、コウモリを保全することによって、頭数が増えて困ってる。

→織委員：重要なお指摘と思う。人との軋轢が生じている部分について、農家の人たちが不利益を被らないよう支援が必要だというお話と理解した。

→門脇（小笠原アイランズ農業協同組合）：遺産価値の保全という大きな枠組みの中で、もちろん我々も外来種対策等に協力して取り組んでいくが、織先生にまとめていただいたような問題についても支援すると明記いただきたい。

→若松（小笠原自然保護官事務所）：承知した。ご指摘の趣旨を含むよう修正できればと思う。

・登地（小笠原村商工会）：p.2に「自然と共生した産業の振興」とあるが、島の資源を利用した産業や商品開発は、これからさらに拡大させていけるのではないかと思った。

→織委員：管理計画にそのニュアンスも加えた方が良いか。

→登地（小笠原村商工会）：感想であり計画書への反映は不要である。ところどころに「適正利用」という表現があるが、逆に言えば適正に利用されない可能性や心配があるという

ことか。

→織委員：枕詞的に使っているだけで、深い意味はないようにも思うが、管理機関からいがかか。

→登地（小笠原村商工会）：承知した。もしそういう適正でない利用があるならば聞きたいと思ったので、表現はこのままでも問題ない。

→若松（小笠原自然保護官事務所）：具体的に不適正な利用があるわけではなく、利用する際には適正にという趣旨で「適正利用」という表現を使っている。

→織委員：誤解を招く可能性がある表現ということで、重要な視点・ご指摘だと思う。

・ 藪内（小笠原野生生物研究会）：p.4に「侵略的外来種の配慮を含むツアー等」とあるが、自然を利用してエコツーリズムを推進するという見方だけでなく、村民や来島者が自然から恩恵を受けるとともに自然に貢献するというようなニュアンスが盛り込まれると良いのではないか。例えば、固有種のために何か貢献しよう、外来種を駆除してあげよう、そういう思いでボランティアに取り組んでもらえると良いと思う。

→織委員：よく理解できる。自然から恩恵を受けている分、その自然を保全するための活動に参加するというニュアンスがどこかに入ると良い。

→若松（小笠原自然保護官事務所）：確かに見出しでレスポンシブル・ツーリズムという言葉を使っておきながら、方策の内容はレスポンシブルな要素が薄いように思えるので、いただいたご意見を踏まえて表現を工夫できたらと思う。

・ 鈴木（小笠原自然文化研究所）：先ほどの門脇さんからのご指摘箇所にも関連するかもしれないが、自然と人の共生については、生態系の管理や持続的な遺産の管理とあわせて進めていかないと実現しないことが多々あると考える。例えばオオコウモリとウミドリについては、防除ハウスのようなハード整備が重要な方策の一つになる。また、オオコウモリについては、山域の生息環境のキャパシティをあげなければ、農業との軋轢は軽減していかない。これは地域連絡会議で10年来話し合ってきたことである。トリカルネットの設置等により、農業被害を軽減することはできていても、根本的な対策にはなかなか踏み出せていない。オオコウモリの生態がわかりつつあるにも関わらず、何年経っても受け身な対策ばかりで、自然再生には手がつかない状況である。ウミドリについては、バードセイバーやイルミネーションイベント等、ソフト対応が主に書いてあるが、特に重要なのは外灯等のハード整備である。すでに協力いただけている部分もあるため、さらに小笠原における公共工事のスタンダードになるように推進していかなければ、いくらソフト対応を進めても対策として不十分であると思う。また、自然と人、あるいは動物たちが共生するためには、持続的な遺産管理という仕組みの問題を自然と人の共生と関連付けて整理されなければ、いくらソフト対応を書いても絵に描いた餅になってしまうだろう。自然と人の両面からバックアップが必要なところについて、「持続的な遺産管理」の項目に具体的な方策、アクションプランがなければ、単なる抽象的なスローガンになってしまうと思う。

- 織委員：大変重要なお指摘だと思う。「持続的な遺産管理」に関する管理の方策は、さらに次の章「管理の体制」に書かれる内容とも関連がある。管理計画全体を通じて、各施策は相互関係にあること、ソフトとハードを両輪で進めていくことについて、どこかできちんと整理していく必要があるというお話と理解した。
- 若松（小笠原自然保護官事務所）：「持続的な遺産の管理」に内容を追記することも考えられるし、鈴木氏からお指摘いただいた具体内容について、例えばオオコウモリと農業との軋轢解消のために山域で必要な対策があること、公共工事での配慮の経緯等については、「自然と人の共生」に追加することも考えられる。
- 織委員：オオコウモリについては、村民にとっても観光客にとっても身近な話題であるため、オオコウモリの生息環境を守ることが抜本的な解決になる、という話をエピソード的に盛り込めるとよりわかりやすくなるかもしれない。管理機関にはぜひご検討いただきたい。
- ・寺尾（小笠原支庁）：本日は参画機関の皆様から貴重なご意見いただいた。全て重要な視点であり、管理計画にも反映していけるという感想を持っている。具体の文案については、今後管理機関内で相談しながら進めていければと思う。
  - ・川添（関東森林管理局）：母島に建設予定の林野庁施設については、不落・不調が続いてきたが、再度公告を目指している。具体的なスケジュールは明確にできていないが、母島の公共事業の発注状況等も勘案しながら進めていきたいと考えている。管理計画については、行政主導で計画検討をしていると地元の皆さんの思いや意見が抜けてしまうこともあると思う。こういった場でご意見いただけて非常にありがたい。
  - ・石原（小笠原村）：先ほどのオオコウモリの話にも関連するが、今春は母島においてオオコウモリと農業との軋轢が顕在化し、農業者の皆さんをはじめ、小笠原自然文化研究所も含めて、多大な苦勞をかけて対策していただいた。そういった現状にも思いを巡らせて、現状や事例を計画に反映させられればと感じた。
- 織委員：努力してる部分と根本的に解決しなければならない課題がわかりやすく整理されるとさらに良くなると思う。
- ・鈴木（小笠原自然文化研究所）：本日のメイン議題からは逸れると思うが、「持続的な遺産の管理」についてコメントしたい。遺産登録によって観光客が増えるにつれ、夜間にコウモリ観察の車がたくさん止まっている光景を目にするようになった。オオコウモリやウミドリの話にも通じるが、動物にとっても人にとっても安全に快適に観察できるような、観光のためのハード整備も必要だと思う。ところがそういう視点は、世界遺産の地域連絡会議等の議題からは抜け落ちている。先ほど石原課長にうまく拾っていただいたが、地域連絡会議のような場では、遺産管理に係る日頃の努力や苦しみのようなものを取り上げられていないと感じる。観光のためのハード整備は、観光業者の努力のみでできることではないと思うので、管理機関でもぜひ検討してほしい。観光のためのハード整備が必要な場所は、島内に何か所もあると思う。また、管理計画の要所要所に民間活用のお話が

ているが、具体的な内容が見えてこない。新たなことに取り組むというよりも、まずは既存の制度を整理してはどうか。例えば、すでにある林野庁の協定制度は、民間と協定を結ぶことで、世界遺産を守る諸制度のもとに行政と民間が協働していくわかりやすい例だと思う。東京都も新しい仕組みを作ろうとしているし、小笠原村も都立大学と協定を結んでいるはずである。新たに助成金を取ってくるという話だけでなく、協定などにより民間の立ち位置や役割、権限が明確になれば、関わる方もより主体性を持てる。まずはすでにあるしくみをうまく運用して、実績を作っていけば、民間も具体のイメージがつかめるようになると思うし、必要な制度も見えてくると思う。

→織委員：観光利用のためのハード整備は、公共施設の建設に対する配慮事項も関係すると思うし、光害の問題もハード整備に直接的に関係する部分だと思うので、重要なご指摘と思う。また、民間活用については、既存の取組やしくみも含めて、具体例を書き込めるとイメージがつかみやすいただろうということかと思うが、管理機関で検討いただけるか。

→若松（小笠原自然保護官事務所）：承知した。本日は説明をできなかったが、参画団体と事務局のみに配布している管理計画案では「持続的な遺産の管理」についても文案を示している。ここでは民間活用の話についても触れてはいるが、まだ不足している部分あると思うので、会議後でも良いのでお気づきの点があればご指摘いただきたい。

→織委員：管理計画は、あくまで管理機関が行うことをまとめたものだが、自然と人の共生については村民や観光客など一般の人にも関係する部分のため、具体イメージを持ちやすい内容、よりわかりやすい表現にすることが必要かと思う。今のような様々な要素があることを図化できると良いかもしれない。

・ 薮内（小笠原野生生物研究会）：私も資料 3-1 や資料 3-2 から外れるが、管理計画の p. 30 に父島の保全対象種と脅威が整理されているが、長期目標①関連では脅威として、ポリネーターの激減もあげられるのではないか。ご検討いただければと思う。

→織委員：科学委員会意見の反映等とあわせて、検討いただければと思う。さらに議題からは離れるが、参画団体のみなさんには事前に事業説明動画を配信しているそうだが、管理機関から補足説明などあるか。

・ 若松（小笠原自然保護官事務所）：毎年度、年度末に管理機関による遺産関連事業について、当該年度の成果と次年度の取組方針を基礎資料集としてとりまとめている。昨年度の基礎資料集については、4月に全戸配布するとともに、参画団体の皆さんには主要事業に関する説明動画を YouTube で共有させていただいている。適宜関係するところ、興味のあるところをご覧いただいて、ご意見があればお寄せいただければと考えている。

→薮内（小笠原野生生物研究会）：事業説明動画は非常に良い。いつでも見れるし、気になるところは何度も見れる。また地域連絡会議で説明していると議論の時間がなくなってしまったため、動画として配信するのはすごく良いと思う。

→織委員：そういった感想は管理機関の励みにもなると思う。ありがたいことである。動画を見た感想などがあれば、後日でも別個に管理機関へお伝えいただければと思う。

## (2) その他

### ・「小笠原諸島世界自然遺産の保全体制等に関する勉強会」の開催について

○科学委員会・織委員から説明を行った。

・織委員：昨年12月、地域連絡会議向けに小笠原の世界遺産管理に関する条約や法律、条例などを整理した勉強会を開催した。参画団体の皆さんにも多数参加いただき、感謝申し上げます。今年度は第2回として、昨年話題に出ていた他の世界自然遺産地域の取り組みや等を紹介できたらと考えている。なお、勉強会は全員参加ではなく、興味のある方のみで良いと考えている。できれば9月に来島して対面で、来島が叶わなければオンラインでも、勉強会を開催できればと思う。準備が間に合えば、海外の有人エリアにおける外来種対策等の事例も含めて紹介したい。

○説明に対する、意見及び質疑はなかった。

・織委員：今日全体通して、様々な視点から具体的なコメントいただき感謝申し上げます。あくまでも管理機関の取組についてまとめる計画ではあるが、地域の皆さんの視点を入れるということが重要だと思う。今日いただいたご意見を全て反映できるわけではないと思うが、重要なポイントも多々あったと思うので、適宜計画へ生かしつつ皆さんにフィードバックしながら検討を進めてもらえればと思う。

○小笠原村・渋谷村長から挨拶

・閉会の挨拶とあわせていくつか話題提供的にお話をさせてもらいたい。まず閉会の挨拶としては、管理計画に関して活発なご議論をいただいたので、今後管理機関で修正等を加えていくことになると思う。特に管理の方策の部分については、今日欠席された方も含めて、追加でご意見があればぜひお寄せいただきたい。現在の予定では、今年の年末の地域連絡会議を経て、今年度末には新しい管理計画を策定できればと思っている。皆さんのご意見を計画に反映し、管理機関の具体的なアクションにつながるような文言を残していただければと思う。

・私からの話題提供の一つは、前回の地域連絡会議で発言した、遺産価値の再評価についてである。奄美・沖縄が世界自然遺産に登録され、国内の世界自然遺産候補地が全て登録された。この機会に環境省に対しては、生物多様性や地形地質について、再度価値を再評価いただき、登録を目指せるだけの価値があるならば、ぜひ目指してほしいということで皆さんのご賛同を得たと思います。これに関しては去年の10月以降、毎月のように上京する機会があり、そのたびに何回か環境省本省にも直接お願いしているところである。また、小笠原諸島振興開発特別措置法の期限が今年度末となっていることに関連し、自民党と公明党の集まりに出席した際には、それぞれ環境省の課長も出席していたことから、改めて再評価のお願いをしてきた。

- ・ さらに 5 月には、沖縄で全国離島振興協議会の会合があったため、少し前に沖縄入りをし、世界自然遺産のやんばる地域を見る機会を持つことができた。小笠原と共通してる点ではヤンバルクイナのロードキル問題が挙げられる。また、ナイトパトロールにも参加した。沖縄本島では、盗掘や密猟も問題になっているようで、それらを見回りつつ、将来的にはナイトツアーに発展させることを目指しているとのことである。また、アノール柵に似たマングース防除柵も見学した。あまりにアノール柵に似ているため、小笠原の事例を参考にしているようにも見えたが、奄美・沖縄とは技術や経験の面でお互いに協力し合える部分があるのではないかと思うので、勉強会ではぜひ織先生から皆さんに他地域の事例をお話いただければと思う。
- ・ 冒頭の方では観光振興ビジョンの話があった。当初は今年度から具体的な事業に着手できればと考えていたが、丁寧な議論を行うため、今年度はまずアクションプランを策定することとしている。また、去年ゼロカーボンシティ宣言をし、今年度は温暖化防止に向けた具体的な実行計画の策定を進めている。科学委員会の方では、気候変動による遺産価値への影響なども懸念されているようである。管理計画、観光振興ビジョンアクションプラン、地球温暖化対策実行計画と、いずれもまだ計画策定段階で動きが見えにくいかもしれないが、今後ぜひ具体的なアクションに繋げていければと考えており、地域の皆様、管理機関、他の団体の皆様にも今後ともご協力をお願いしたい。

以上